

令和2年度 授業改善推進プラン 技術・家庭科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・授業に興味・関心がもてるような題材や課題設定を心がけた。その結果、興味・関心をもって取り組む生徒が増えた。今年度はさらに多くの生徒が興味・関心を持ち、授業に取り組めるよう工夫を行う。
- ・実習題材を精選し、視聴覚教材を利用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。
- ・達成感の高い作品を教材としたことで、多くの生徒を家庭で作品を使用してくれている。今後も達成感をもてる作品作りを継続することが重要と考える。
- ・作品作りにあたっては安全に留意した指導を意識しているが、こちらの意図しない時間や場面で指に怪我をする場面があった。工具の取り扱いについては怪我をしない指導が継続して必要である。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子からは「ものづくり」が好きであることが伝わるが、設計図を描いたり、それを読みとることや、手順を考え作業することが苦手な生徒が多くみられる。 ・食生活の実習は、男女ともに関心・意欲が高い。しかし、衣生活の実技は女子に比べて男子の関心・意欲が高くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程表をつくり、作品を完成させるまでの計画を立ててから、作業させる。 ・進度の遅い生徒に対して、放課後に作業の補習を行い、作品を完成させる。 ・実際の生活において、作品を活用する観点から、補修の仕方までを指導する。 ・座学の授業でも、拡大図や資料をプロジェクタや電子黒板を使って提示し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような工夫をする。
創意・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の作品や製品から、より使いやすくなるように機能やデザインを工夫し、自分の発想を表現できるようにする力をつけさせる。 ・作品作りにおいて、創意工夫しようとする意欲を今後も持続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の工夫や発想のよいところを褒めるように心がける。自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスをを行う。 ・学年に応じた適切な題材を取り入れ、完成した時の達成感をもたせる。 ・既存のデザインに自分でアレンジを加え、オリジナリティのある作品とすることで関心・意欲を高める。 ・見本となる作品例や段階標本をできるだけたくさん作成し、生徒自身が実際に目で見て、確認しながら、創意工夫する。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を作る際に、効率や器用さにおいて技能的な差異が確認できる。注意散漫な生徒、特別に支援が必要な生徒も少なからずいて、作業進度に差が見られる。 ・情報に関する技術の進展が、生活を大きく変えることを理解させ、基本的なコンピュータの操作能力を、定着させるようにする。 ・衣生活と自立・食生活と自立の分野では、作品製作や調理などの実習において理解や技能に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業進度の差が少なくなるよう、同じ進度で進められるように授業を組み立てる。作業や、課題の終了した生徒へ、対応の工夫を図りプリントや課題を用意する。また、生徒同士の教えの場を作るようにする。 ・社会のあらゆる場面で情報を活用・表現する力を身に着ける。情報を収集して加工し、作品を制作し発表する力を養うようにする。またグループ活動も取り入れ、生徒同士の模範作業などを多く取り入れる。 ・基本的な技能については、放課後などに時間を確保し、個別に指導する。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に対して熱心に取り組む生徒が多い。しかし、作業を行うための前知識を定着させる内容でつまずいてしまう生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を説明する際、視覚的にも訴えられるよう、実物投影機などのICT機器や、それぞれの段階の見本を準備し活用する。 ・ワークシートやワークノートを活用し、授業の振り返りを行い基礎的な知識を身につけ覚えさせる。 ・授業毎に作業内容の確認と次回の作業内容の確認をし、やるべきことを明確化させる。